

消炎・鎮痛外用剤について

痛みや炎症に対して病院でよく処方されることが多い湿布。最近では薬局やドラッグストアでも購入できるので、使用する機会が多いのではないのでしょうか。今回はよく使用される湿布剤の中で、非ステロイド性鎮痛剤(NSAIDs)の貼り薬についてのお話です。

【非ステロイド性鎮痛剤(NSAIDs)とは?】

プロスタグランジン(生体内にある痛みなどを増強させる物質)と呼ばれる物質の産生を防ぐことによって、痛みをとったり炎症を鎮めたりします。一般に頭痛、関節痛、打撲痛などには非ステロイド薬(NSAIDs)が使われます。



●湿布の種類

大きく分けて水を含む**パップ剤**と水を含まない**テープ剤**があります。

パップ剤: 不織布に水分を含む軟膏が含まれており、貼った瞬間にヒヤッとした感触が特徴です。水分を含んでいるので、粘着性は弱いですが保湿剤の役割もあるためかぶれにくいという特徴があります。ただし、見た目は白く厚い物が多いため目立ちやすく、いわゆる「湿布の匂い」もテープ剤と比較して強めです。

テープ剤: 粘着性が高く剥がれにくいので、肘や膝などよく動かす関節などの貼付に適しています。剥がれにくいので長く効果を示してくれるため1日1回のもので多いです。その反面、粘着性が高い分皮膚への密着性が強くかぶれやすいという一面もあります。テープ剤は肌色が多いので目立ちにくく、また匂いもパップ剤と比べて少ない物が多いです。

当院採用の消炎・鎮痛外用剤の一例

○ロキソプロフェンNa テープ

成分のロキソプロフェンはテープ剤以外にも、飲み薬やゲル剤など多種類の形があり市販品としても購入可能なため目にすることが多いと思います。貼り薬は局所的作用を示し、副作用が比較的少ないという特徴があります。テープ剤のため、密着性があるあり毎回同じ場所に貼ってしまうと皮膚トラブルの原因となるので避ける必要があります。

○ケトプロフェンテープ(先発品名:モーラステープ/パップ)

ロキソニンテープ剤と同系統のお薬ですが、関節リウマチにも適応があるのがこちらのお薬になります。このお薬も比較的副作用が少ないのですが、特徴的な副作用に光過敏症というものがあります。これは肩や肘など直接日に当たる部位に貼付することで、日光アレルギー(皮膚の炎症や発赤など)を起こしてしまう可能性があります。お薬を剥がした後も4週間は貼付部位に直射日光が当たらないようにしましょう。パップ剤とテープ剤どちらも同じ副作用があります。5-9月は紫外線も強いため、湿布剤は紫外線を通しにくい服やサポーターなどで覆うようにして光を遮断するなど注意が必要です。



○ロココアテープ

「貼る飲み薬」ともいえるお薬です。皮膚から高濃度の成分が体内に入るため飲み薬と同様の消炎・鎮痛効果を得ることが出来ます。そのため「1日2枚まで」という制限があります。上記2剤と異なり、他の飲み薬との飲み合わせにも注意が必要です。またハッカ油を多く含んでいるため、テープ剤ですが「湿布くささ」が強いのも特徴です。

★貼り薬といっても、1日に何枚も貼ることによって皮膚からたくさんの成分が吸収されて飲み薬同様の副作用を起こしてしまうことがあります。不明点があれば医師・薬剤師へ相談してください。